トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

2017 CSR REPORT

目　次

■会社プロフィール　2
■トップメッセージ　5
■経営理念　7
■コーポレート・ガバナンス　7

■もっといいクルマづくり　8
■もっといいコースターづくり　8
■多様なニーズに応える福祉車両、特装車　14
■環境にやさしいクルマ（超小型電気自動車コムス・燃料電池車）　15
■良い品質のクルマづくり　16
■取引先様とともに　17

■人づくり、職場づくり　18

■社会貢献　28

■地球環境にやさしく　31
■製品環境　33
■生産環境　35
■環境マネジメント　36

編集方針

当社は「もっといいクルマづくり」を通じた豊かな社会づくりに貢献するべく企業活動に取り組んでおります。本レポートでは当社およびトヨタ車体グループを巾広く知っていただけるよう、ＣＶ Company として初のモデルチェンジ車である「コースター」を通じたもっといいクルマづくりをはじめ、ＣＳＲ活動全般を紹介致します。

また、取り組みをより分かりやすくお伝えするために、本紙では活動のポイントを紹介しておりますが、更に深くお知りになりたい方は、本文中の click マークから詳細情報をご覧いただく事ができます。

尚、最終頁にアンケートを掲載しておりますので皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

本レポートの対象範囲と期間

対象範囲	トヨタ車体と連結対象子会社
対象期間	2016 年 4 月～ 2017 年 3 月を原則としますが、進捗のあった事項は期間を超えて記載。

表紙のクルマ

コースター
（2017 年 1 月 新型発売）

エスティマ
（2016 年 6 月新型発売）

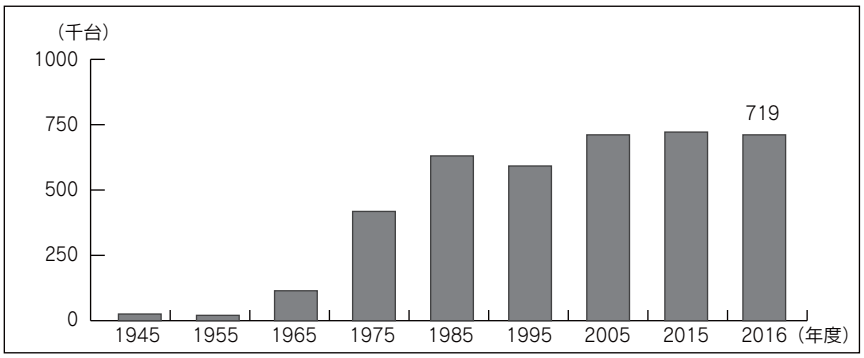
ハイエース
リヤリフト車
（2016 年 6 月新型発売）

■会社プロフィール

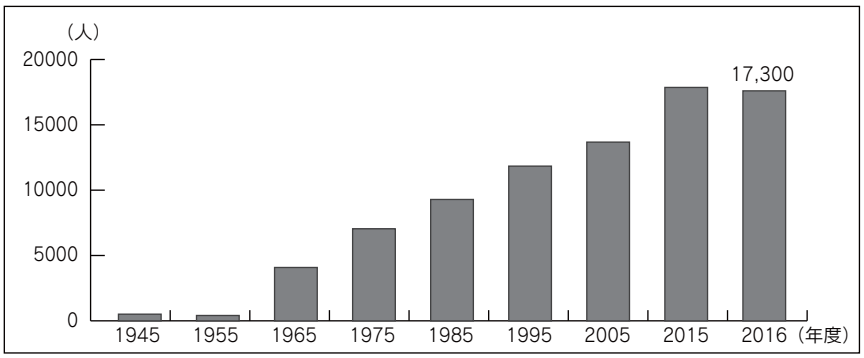
会社概要

社　　名	トヨタ車体株式会社
本社所在地	愛知県刈谷市一里山町 金山 100 番地
設　　立	1945 年 8 月 31 日
代 表 者	取締役社長　増井　敬二
資 本 金	103 億 7 千 1 百万円
売 上 高	1 兆 8,449 億円 (2016 年度実績・連結)
事 業 所	本社／富士松工場、 いなべ工場、吉原工場、 刈谷工場、 寿新規開発センター

【売上台数】



【従業員数（連結）】



関連情報

- click 会社概要
- click 製品ラインナップ
- click 開発から生産までの流れ

主要製品

当該モデルの初代発売年を〔〕内に表記

ミニバン

アルファード
〔2002年〕

ヴェルファイア
〔2008年〕

エスティマ
〔1990年〕

ヴォクシー
〔2001年〕

ノア
〔2001年〕

エスクァイア
〔2014年〕

商用車・コミュータ

ハイエース
〔1967年〕

コースター
〔1969年〕

SUV

ランドクルーザー
200
〔1998年〕

レクサス
LX
〔2007年〕

ランドクルーザー
70 バン
〔1984年〕

小型 EV

コムス
〔2000年〕

福祉車両

リフトタイプ
車いす仕様車
〔1968年〕

サイドリフト
アップシート車
〔1994年〕

スロープタイプ
車いす仕様車
〔2001年〕

ウェルキャリー
（フレンドマチック
取付用専用車）
〔2009年〕

回転チルト
シート車
〔2015年〕

特装車

保冷バン
〔1979年〕

主な事業所

生産拠点

本社・富士松工場
愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地

＜主要製品＞
エスティマ、ヴォクシー、ノア、
エスクァイア、ランドクルーザー 70

いなべ工場
三重県いなべ市員弁町市之原 10 番地

＜主要製品＞
アルファード、ヴェルファイア、
ハイエース、レジアスエース

吉原工場
愛知県豊田市吉原町上藤池 25 番地

＜主要製品＞
ランドクルーザー 200、レクサス LX
ランドクルーザー 70

刈谷工場
愛知県刈谷市昭和町 2 丁目 1 番地

＜主要製品＞
コムス、福祉車両「ウェルキャブ」

開発拠点

開発センター
本社・富士松工場内

生産技術センター
本社・富士松工場内

寿 新規開発センター
愛知県豊田市寿町 1 丁目 36 番地 1

国内・海外　子会社

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

岐阜車体工業（株）
（岐阜県各務原市）〔1940 年〕
＜自動車、同部品の製造・販売＞

（株）東海特装車
（愛知県安城市）〔1954 年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタ車体精工（株）
（愛知県高浜市）〔1992 年〕
＜シート部品などの製造・販売＞

エース産業（株）
（愛知県刈谷市）〔1974 年〕
＜部品、設備機器等の製造・販売＞

東海部品工業（株）
（愛知県刈谷市）〔1999 年〕
＜プレス・板金部品の製造・販売＞

ＴＡＢＭＥＣ（株）
（愛知県刈谷市）〔1985 年〕
＜建物、付帯設備の総合メンテナンス＞

（株）トヨタ車体研究所
（鹿児島県霧島市）〔1990 年〕
＜自動車部品の設計・試験＞

（株）エル・エス・コーポレーション
（愛知県刈谷市）〔2000 年〕
＜事務・福利厚生施設管理・
警備保障業務代行＞

■会社プロフィール

〔〕内の数字は創立年
＜＞内は主な事業内容

国内子会社

（株）イナテック
（三重県いなべ市）〔2000年〕
＜環境分析および計量証明＞

ライフクリエイション（株）
（愛知県豊田市）〔1993年〕
＜オフロード施設の運営＞

（株）ライフサポート
（愛知県安城市）〔1999年〕
＜介護用品販売、ホームヘルプサービス＞

（株）ジー・アイ・サービス
（岐阜県各務原市）〔1988年〕
＜福利厚生・工場営繕、保険他サービス＞

＊子会社の岐阜車体工業㈱の100%子会社

海外子会社

スギティー クリエーティブス（株）
（インドネシア）〔1995年〕
＜自動車、樹脂部品の製造・販売＞

春翔欣業（株）
（中華民国（台湾））〔1997年〕
＜プレス・板金部品、金型などの製造・販売＞

タイオートコンバージョン（株）
（タイ）〔2004年〕
＜特装車の製造・販売＞

トヨタオートボデートーカイエクストゥルージョン（株）
（インドネシア）〔2005年〕
＜ゴム、樹脂成形部品の製造・販売＞

トヨタオートボデーマレーシア（株）
（マレーシア）〔2005年〕
＜プレス、板金、樹脂部品の製造・販売＞

オートパーツマニュファクチャリングミシシッピ（株）
（アメリカ）〔2007年〕
＜プレス、溶接部品、樹脂部品の製造・販売＞

トヨタオートワークス（株）
（タイ）〔1988年〕
＜自動車の製造・販売＞

レジンプラッティングテクノロジー（株）
（インドネシア）〔2013年〕
＜樹脂めっき部品、樹脂部品の製造・販売＞

じあしん ほうじつふくしきしゃぶけん
嘉興 豊実福祉汽車部件有限公司
（中国）〔2011年〕
＜福祉機器の販売＞

シートメタルパーツタイランド（株）
（タイ）〔2015年〕
＜シート部品などの製造・販売＞

＊子会社のトヨタ車体精工㈱の100%子会社

関連情報 click 国内子会社 click 海外子会社

■トップメッセージ

「もっといいクルマづくり」を通じて
豊かな社会づくりに貢献します

取締役社長
増井 敬二

平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は 1945 年にトラックボデーの専門メーカーとして創業し、日本初のオールスチールキャブの「ＢＸ型トラック」やモノコックボデー商用車「ハイエース」、世界初のコンポーネントレイアウト・ミッドシップ「エスティマ」など、つねに時流に先んじる車の開発・生産に取り組んでまいりました。
本年 4 月には自動車生産累計 3,000 万台を達成することができました。これは当社製品をご愛顧いただいているお客様、取引先・関係各社のおかげであり、皆様に改めてお礼申し上げます。

昨年 4 月に発足したトヨタ自動車の製品軸ビジネスユニットである “CV Company”※ の使命は、世のため人のため、世界のお客様の生活を支え続ける「もっといいＣＶづくり」であります。当社は、その “CV Company” の中核として、トヨタ自動車との人材交流や仕事改革など連携を深めながら、一体となってお客様の期待に応えるべく取り組んでいます。

その取り組みの１つとして、本年１月に発売した新型「コースター」は、24 年ぶりのモデルチェンジとして “CV Company” の開発から生産までのすべての担当者が一丸となり、快適性、安全性および環境性能の向上に取り組んでまいりました。多くのお客様からもご好評をいただき、まさに “CV Company” として初のモデルチェンジに相応しいクルマを世に送り出すことができました。

※ ＣＶはコマーシャルビークルの略

■トップメッセージ

環境保全の取り組みについては、1993 年に第１次「トヨタ車体環境取り組みプラン」をスタートさせて以来、毎年目標を掲げて取り組んでまいりました。昨年３月には第６次「環境取り組みプラン (2016 ～ 2020 年)」を策定し、生産工場の省エネ・低CO_2 生産技術の織り込み、燃費性能に寄与する軽量化技術の開発ならびに連結環境マネジメントに積極的に取り組んでおります。

更に、本社工場に隣接する当社「ふれ愛パーク」を活用し、近隣小学校や行政と連携した稲作体験、環境学習会などに取り組む他、愛知・三重・鹿児島・インドネシアなどの事業所の所在地を中心に「トヨタ 車体グループ企業の森」整備活動や地域参加型の植林活動などにも取り組んでおります。

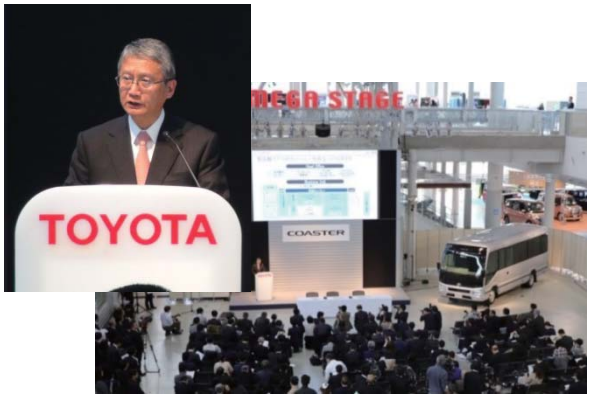
また、福祉への取り組みとしてすべての人に移動の自由と喜びを提供するため、高齢の方や身体の不自由な方のための福祉車両・ユニットや、一人乗り電気自動車「コムス」の開発・生産に取り組むと同時に、福祉車両による車いす利用者の移送サービスの運営、高齢者介護施設への慰問や車いすの清掃等ボランティアにも取り組んでいます。今後も当社らしい活動に取り組んでまいります。

なお、本年３月 20 日に当社いなべ工場の塗装ラインで発生した火災により、皆様に多大なご心配、ご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。このような事故を二度と発生させないよう、全社一丸となって再発防止に取り組んでまいります。

皆様におかれましては、引き続きかわらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2017 年６月

＜新型コースター発表会　2016年12月＞



＜ふれ愛パークでの田植え体験、泥遊び＞

■経営理念

当社は、豊田綱領の理念を受け継いだ社是と基本理念をもとに、持続可能な社会の発展に貢献すべく、すべてのステークホルダーを重視した経営を行ってまいります。

豊田綱領（1935 年制定）

一、上下一致　至誠業務に服し
産業報国の実を挙ぐべし
一、研究と創造に心を致し
常に時流に先んずべし
一、華美を戒め　質実剛健たるべし
一、温情友愛の精神を発揮し
家庭的美風を作興すべし
一、神仏を尊崇し　報恩感謝の
生活を為すべし

社 是（1963 年制定）

我が社は　国際的視野にたち研究と創造とにはげみよい製品によって社会に貢献し社業のたゆみない進展をめざす

開発：つねに時流に先んじアイデアと時間を尊重する
和親：誠実と信頼により 明朗と協調とをはかる
感謝：反省を進取の糧とし勤労のよろこびに生きる

基本理念（1995年制定、2004年改定）

1.環境との調和とオープンでフェアな企業行動を基本とし、国際社会から信頼され、豊かな社会づくりに貢献する企業をめざす。

2.お客様を第一に考え、研究と創造を通して、生活空間を豊かにする「よい商品」を提供する。

3.人と組織を活性化し、創造力と活力ある企業風土をつくり、企業の繁栄と社員の幸せを追求する。

4.取引先との相互信頼と開かれた取引関係を基本に、互いに経営体質の強化に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

click「CSR 方針」

■コーポレート・ガバナンス

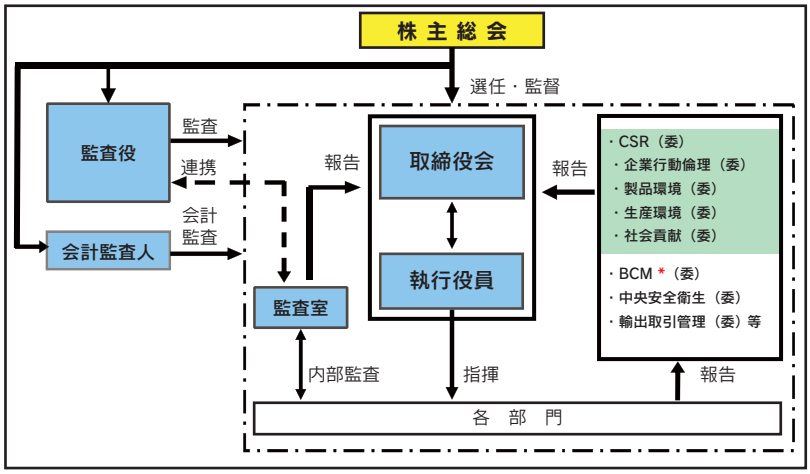
当社は、効率化をはかると同時に透明性の高い経営のしくみづくりに取り組んでいます。

執行役員制度を導入し、事業戦略展開の迅速な意思決定およびオペレーションのスピードアップを図っております。

また、社外を含む監査役の監査ならびに会計監査人による会計監査のほか、各部門から独立した監査室が、財務報告の信頼性及びコンプライアンスの領域を重点に内部監査を実施しています。

全役員および監査役で構成する「CSR委員会」とその下部組織として4つの委員会を設置し、重要課題について審議・対応しています。

コーポレートガバナンス体系図



＊：Business continuity management(事業継続マネジメント）の略。各部各機能で復旧に向けた事業継続計画（BCP）を策定し、訓練などを通じ PDCA を回して改善・見直しに取り組む活動

■もっといいクルマづくり

開発本部統括
取締役　専務役員
小西　雄三

お客様の笑顔と感動を思い浮かべ

「もっといいクルマづくり」を通して、全ての人に移動の自由と喜びを提供します。そのため国内のみならず世界各地域の方々に使っていただけるミニバン、ＳＵＶ、商用車・コミュータ、高齢の方や身体の不自由な方のための福祉車両、環境に優しい利便性を高めた一人乗りＥＶ「コムス」等、幅広い商品の開発に取り組んでいます。

“お客様の笑顔”

もっといいコースターづくり

全社一丸となって取り組んだ「もっといいコースターづくり」

２４年ぶりのモデルチェンジとして、お客様の声を大切にし、お客様の期待を超えるクルマを目指し、快適性、安全性、環境性能の向上に取り組んだ、“ＣＶ Company” の初のモデルチェンジとなる新型「コースター」の取り組みをご紹介します。　（次頁以降、Ｐ.９～Ｐ.１３でご紹介）

新型「コースター」
（２０１７年１月発売）

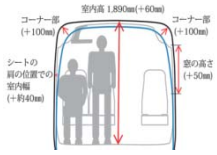
お客様の声を大切に

路面環境の調査
（パプアニューギニア）

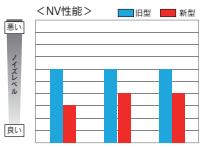
公共バス（香港）

P.9

「快適性」を求めて



客室空間の拡大



NV 性能の向上

P.9

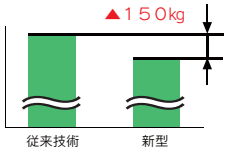
万が一に備える「安全性」

横スベリ防止の初採用

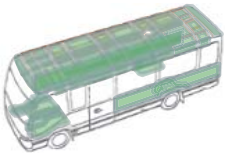
横転性能の向上

P.10

地球にやさしい「環境性能」



軽量化の取り組み



リサイクル材の
採用拡大

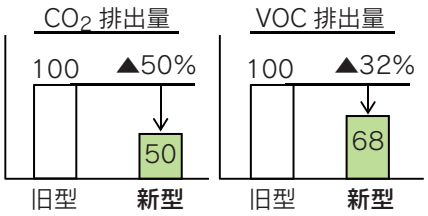
P.11

もっといい工場づくり

（人に優しい、環境にやさしい）

（旧）手作業　（新）自動機

インパネモジュールの自動搭載で
室内組付作業が格段に減少



新型コースターラインの CO_2 排出量等
削減効果

P.12 ～ 13

お客様の声を大切に

コースターは、世界１１０ヵ国以上の国や地域で使われています。海外では、砂漠や資源採掘現場などの厳しい使用環境に耐える高い信頼性を築き、販売開始から累計で約５５万台を販売しています。

沖縄レンタカー送迎用（那覇空港）

世界各国の路面や環境、使われ方を調査

開発者自身が、世界各国の路面状況や環境、使われ方を現地におもむき調査し、お客様のご意見を直接伺い、製品開発につなげるよう取り組んでいます。

未舗装の荒れた道路を走行
（パプアニューギニア）

砂漠地帯での使用
（アルジェリア）

公共バス（香港）

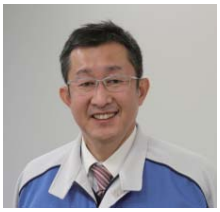
お客様からの貴重なご意見、生の声を大切にしています

お客様からいただく様々なご意見に対し、開発技術者が市場に自ら出かけ、実際の使われ方を見て、お客様から直接話を聞き、開発を推進しています。

＜お客様からの主なご意見＞

- もっとゆったりとした客室空間
- ロングモデルライフでデザインが旧来的
- 運転席まわりに物入れがほしい
- 安全装備を充実してほしい
- 故障せずに安心して使える

新型コースター　開発担当者の声



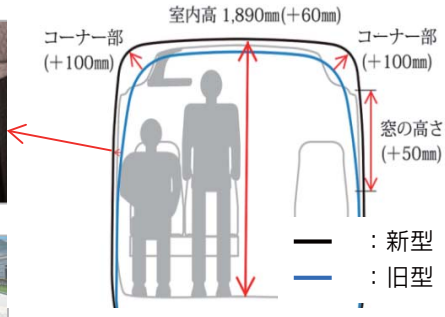
製品企画センター　宇佐美　彰英

２４年ぶりのモデルチェンジにあたり、長年培ってきた信頼性をさらに進化させるために、市場でのお客様の使われ方を常に留意しました。

「快適性」を求めて

【ゆとりある客室空間】

客室は、室内高を 60mm 高くし、窓側は肘が置ける程度（約 40mm）外側へ拡大。また、サイドウインドウの上下高さを 50mm 広げるなど、開放感と快適な乗客スペースを提供しています。

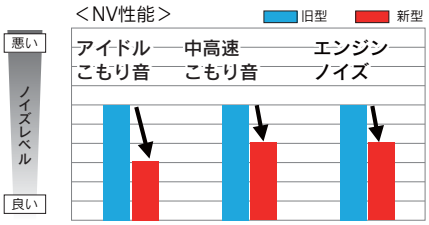


【高級感のあるシート】

「EX」のシートは、合成皮革とファブリックを組み合わせたシート表皮にダブルステッチをあしらい高級感を演出。また、クッション材に低反発ウレタンを採用し、着座時のフィット感を向上しました。

【快適な客室空間】

ボディ剛性の向上や、エンジン周りに防音材を追加し、最適配置するなど、様々な改良により、静粛性能の向上を実現しました。



【機能的なコックピット】

運転席は、フロントウインドウの開口部を広げ、視界を拡大し、機能スイッチや運転席周りの物入れを最適配置することで、視線の動きを最小限にし、ドライバーが運転に集中しやすいコックピットを実現しました。

【「Modern & Tough」目を引く外装デザイン】

ルーフサイドに面取りをきかせ、シンプルでありながら目を引くモダンなデザインとしました。スクエアなボデーシルエットで室内の広さを表現しました。サイドを上下分割したキャラクターラインとタイヤ周りを強調したアンダーボディでキャビンをしっかり支える頑丈なボディを表現しました。

万が一に備える「安全性」

世界中のお客様が安心して、そして安全に行きたい所に行って、帰ってくることができる。
そんな車を目指して開発を続けています。

【ＶＳＣ(Vehicle Stability Control)】

コーナリング時の横滑りなどを抑制し、車両走行時の安定性を確保するＶＳＣを日本でクラス初採用しました。

＜VSC 作動イメージ図＞

様々な路面、環境に対する適合性確認

現地調査の結果やお客様の声を元に世界中のあらゆる路面、環境、使われ方を想定し、実験室、テストコース等で試験を重ね、高い耐久性を実現しています。

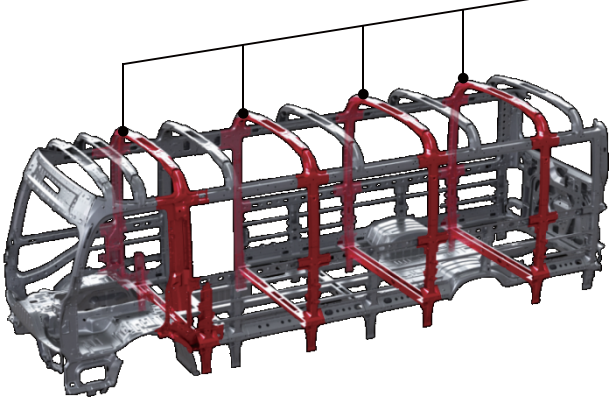
油圧により台上で実車を振動させ、路面状況を再現し耐久性能を評価

お客様の安全のため、万が一の場合の被害軽減を目指して

【世界的な安全評価基準、ECE 基準 *1 R66*2（ロールオーバー性能）に適合】

環状骨格 *3 や高張力鋼板の採用により、バスボデー強度の世界的な安全評価基準 である、「ECE 基準 R66」に適合し、万が一、車両がロールオーバー（横転）した場合にも客室空間の確保に配慮しました。

*1 欧州統一車両法規（Economic Commission for Europe regulations）
*2 ECE 基準で定める、バスの上部構造の強化に関する 統一法規
*3 **環状骨格**
ルーフ部の補強材と側面のピラーとをつなぎ一体化した構造により、強度・剛性をアップ



〈ロールオーバー（横転）性能評価〉

click 実車による試験［動画］

衝突安全評価 担当者の声

衝突安全実験室　清水　亮太

コースターはトヨタ車で最も乗車定員の多い車です。そのたくさんのお客様に安心して、安全に乗っていただきたい、という想いで開発を進めてきました。万が一横転した場合でも、必ずお客様の被害軽減に力を発揮してくれる車だと信じています。

【幼児用専用車の安全対応】

リヤシートのシートバッククッションにより、園児がシートにぶつかった際の衝撃を緩和します。また、運転席の後ろなどにプロテクターを設け、最前列に座る園児の安全にも配慮しています。

シートバッククッション

プロテクター
（運転席側最前列）

プロテクター
（左側最前列）

click「安全なクルマづくりの取組みの成果」

地球にやさしい「環境性能」

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境問題と考え、関係部署が連携し環境にやさしいクルマづくりを設計段階から取り組み技術開発を進めていきます。

開発・生産技術部門の役員を交え、コースターの軽量化について討議

トップクラスの燃費性能に寄与する軽量化技術の開発

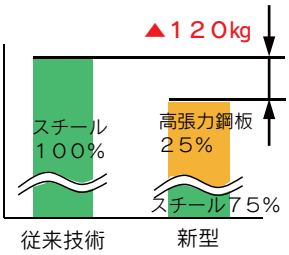
【ボデー・内張り部品・外装部品の軽量化に向けた主な取り組み】

高張力鋼板の採用や基材発泡化、樹脂化、薄板化により▲１５０ｋｇの軽量化を実現しました。ボデーはＣＡＥ解析を行い環状骨格など強度バランスを取りつつ、強度と軽量化を高いレベルで両立しています。

＜ボデー＞

アッパ/アンダーボデー

高張力鋼板の採用により鋼板の薄板化

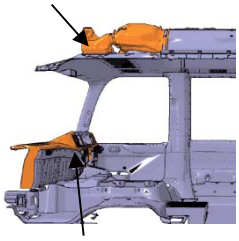


高張力鋼板
（５９０ＭＰａ材
４４０ＭＰａ材）

＜内張り部品＞

クーラーダクト

基材ソリッド→発泡化



インストルメントパネル

基材▲０.５mm
薄板化

＜外装部品＞

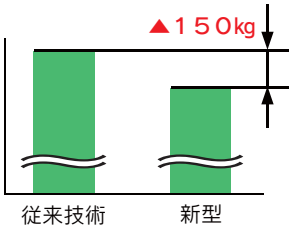
バンパー

スチール→樹脂化

フロントバンパー
：▲8kg

リヤバンパー
：▲7kg

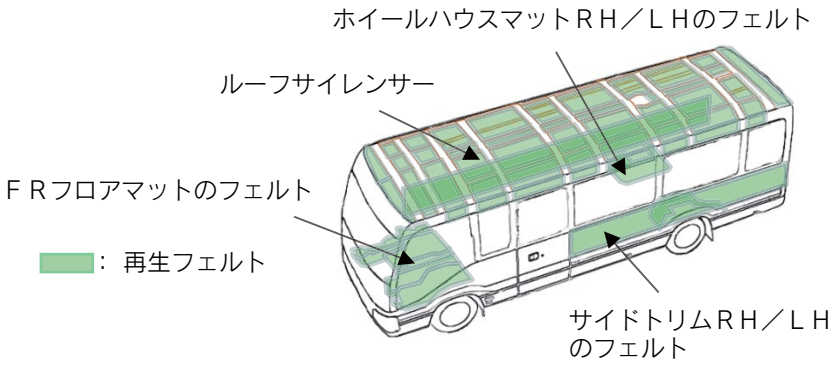
コースター軽量化トータル



リサイクル材の使用拡大に向けた取り組み

【市場で廃棄されるリサイクル材の使用拡大】

コースターでは再生フェルトを使用し、リサイクル材の使用拡大を実施しました。



新型コースター開発担当者の声

ボデー設計部　　金田　健一

車体の骨格部材に積極的に高張力鋼板を採用して薄板化し、安全性を確保しつつ軽量化を実現しました。

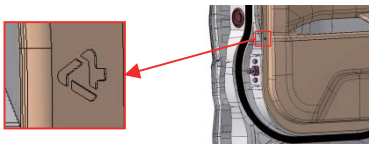
最新の車両解体性向上技術の採用

使用済み自動車の資源循環を推進するため、最新の取組みを設計段階に織り込み、解体しやすく分別しやすい構造を積極的に採用しました。

【ドアトリムを引き剥がしやすく】

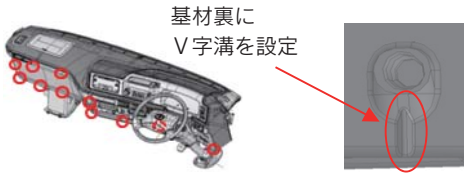
取り外し時の起点となる位置を設定、解体性向上マークを付けました。

『解体性向上マーク』



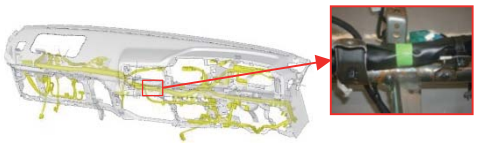
【インストルメントパネルを取り外しやすく】

締め付け部にＶ字溝の薄肉化による破断構造を採用、強く引っ張ると容易に取れる構造にしました。



【ワイヤーハーネスを引き剥がしやすく】

他部品と干渉無く引き剥がせる経路配置と合わせ、引き剥がし位置の視認性向上のため黄緑テープを設定しました。



もっといい工場づくり

２０１７年１月に立ち上がった岐阜車体工業（株）の新型コースターラインは、開発段階から、開発・生産技術・生産が連携し、取引先様にもご協力いただき、つくりやすさにこだわった改善により、品質向上を推進しています。

【組立工程　インパネ組み付け作業の改善】

＜旧型＞

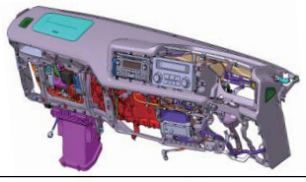
・インパネ構成部品の一部を先に室内へ組付け、それ以外の部品は作業者が手作業で搬入。

＜作業者の声＞
手作業で部品を搬入していたので、傷をつけないよう慎重に作業していました。

＜新型＞

・インパネをモジュール化※し、フロントウインドウ開口部から自動機で搭載。室内での組付け作業が格段に減少した。

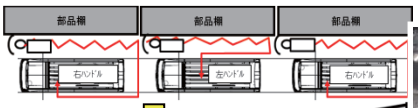
※インパネ リインフォースやエアコン等、主要構成部品を予め組付け搭載するよう、設計段階から検討



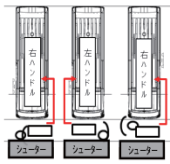
【組立工程　ライン長さ短縮（ボデー横送りライン）】

車両室内作業の多いトリムラインや下廻りラインはボデーを横送りにして工程長短縮と作業者の歩行低減を図りました。

旧型ライン



新型ライン



横送り下廻りライン

横送りトリムライン

【やりにくい作業の自動化（ルーフサイレンサー貼り付け）】

遮音対策でルーフ部（室内側）全面にサイレンサ（不織布：柔らか物）を組立工程で貼り付けています。

旧型ラインでの作業
（上向き上肢作業）

新型ラインは作業の一部を自動化しロボットアームによる柔らか物の貼り付け工法を確立しました。

【人やさしい車内搭載工法（シート搭載作業性改善）】

マイクロバスは多脚のシートを車内に搭載するのが大きな課題です。コースターも 14 脚のシートがあります。

（作業者の声）
狭くて当てそう

旧型ラインでの作業
（狭い乗降口から
1 脚毎の搭載）

（作業者の声）
大きな開口から不安なく搭載できる

新型ラインは大きなサイドウィンド開口から
1 列分（2 脚：A シングル /B ダブル）を
一括搭載

働きやすい組立工場づくり　　担当者の声

車両生技部　河合　剛

組立工場は「人が主役」です。
「働く人にやさしい」に拘って工程の成り立ち、設備のあり方を皆で試行錯誤して実現しました。

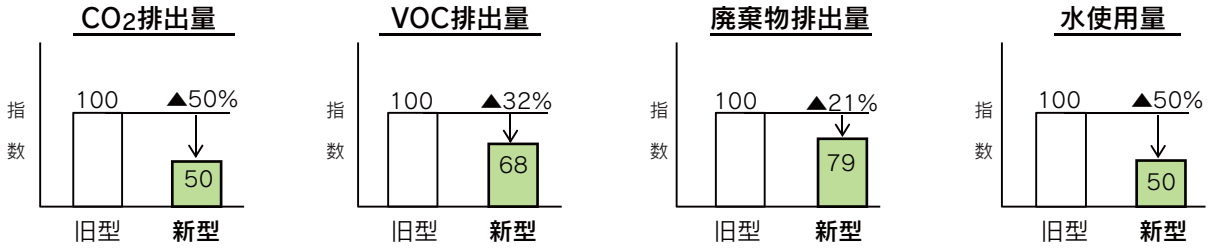
岐阜車体工業（株）組立課　　福田　敏博

「全て（設備投資･スペース･加工工数など）をミニマムに！」に拘り製造準備を進めてまいりました。
今後も更なる製品・工程づくりを目指して行きます。

もっといい工場づくり

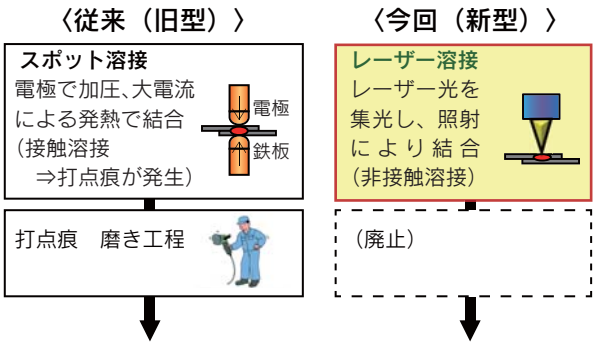
新型コースターラインは、モデルチェンジ、工程刷新に併せて、環境負荷の少ないクルマづくりを目指し、造り方変革、製品仕様・構造変更による改善により、環境にやさしい、もっといい工場づくりに取り組みました。

コースター生産ライン削減効果（原単位）

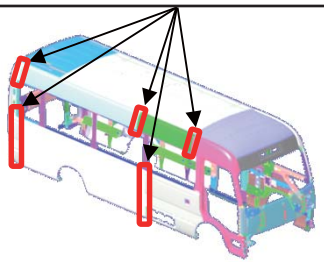


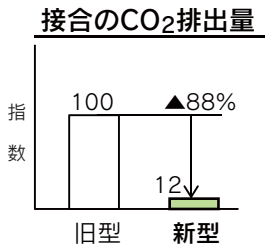
【板金工程の事例】

従来のスポット溶接に対しエネルギーの少ないレーザー溶接を導入し、更にスポット溶接の加圧溶着から非接触溶着にする事で仕上がり品質が向上し、磨き工程を廃止しました。



スポット接合を高速レーザー接合へ！





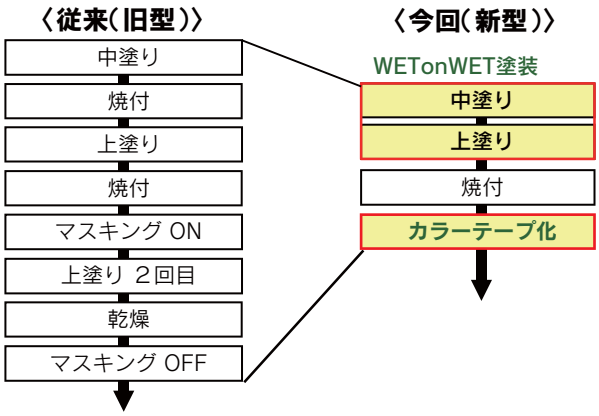
技術開発　担当者の声

ボデー生技部　伊藤 貴敏

今回の新工法は、開発からライン 導入まで一気通貫で開発担当し ベンチマークになる技術にすること が出来ました。
今後も、お客様に喜ばれるもっといいクルマ造り、もっといい工場造りにつながる 生産技術開発を推進していきます。

【塗装工程の事例】

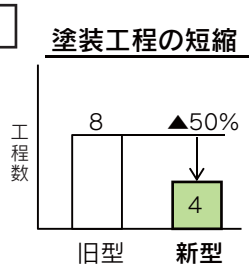
WETonWET 塗装や塗装部位をカラーテープに置換える工法の開発によりＣＯ2排出量の多い塗装ブース、乾燥炉を１／２に工程短縮し、生産で使用するエネルギーや塗料に含まれる VOC 量を削減しました。大量のマスキングも廃止しました。



マスキング＋上塗り２回目をテープ貼付へ！

マスキングON＋上塗り

テープ貼付



働きやすい塗装工場づくり　担当者の声

塗装生技部　三浦　正人

「働きやすさ」を根本から考え、技術革新で従来と風景の違う 塗装工場を実現できました。
今後も、もっといいクルマづくり を支える、もっといい工場づくり を、開発、生技、製造一丸で 考え抜き、実現していきます。

多様なニーズに応える福祉車両・特装車

全ての方に「移動の自由」と「喜び」を提供

身体の不自由な方に加え、高齢者、介護者やご家族の皆さんに喜ばれる福祉車両の開発、及び多様な特装車をマーケットインしながら開発、提供に取り組んでいます。

福祉車両・ユニット

お客様に喜ばれるために、介護施設・高齢者施設や販売店を訪問し、実際の使われ方を見せて頂き、ご意見を伺い、製品開発へつなげるよう取り組んでいます。

お客様の使われ方を調査し、開発へつなげる活動

お客様の使い易さを向上させた車いすリフトユニットを搭載したハイエース車いす仕様車を開発、発売しました。

お客様の声

・介護者が車いすの方へのシートベルト装着時に、車いすの車輪にベルトを通しにくく、時間がかかる
・車いすの方へシートベルトを装着した時、高齢者の首に当たる時がある

＜ハイエース　車いす仕様車開発への展開＞

車いすに通し易いシートベルト　シートベルトを肩に合わす

国内外での普及活動

より多くの方に知っていただくため、国内外での普及活動を積極的に行っています。

当社従業員デモンストレーションによる説明
（大阪　バリアフリー展）

福祉車両を体感して頂く
（北京国際福祉機器展）

福祉車両開発担当者の声

特装・福祉センター　野首　福利

デイケアサービス・福祉施設で毎日の送迎に利用されるため、車いすの方・介護者が使い勝手が良く、安心して使って頂ける製品を目指し開発しました。
今後も高い安全性・信頼性を確保した製品開発を進めます。

click「福祉商品ラインナップ」

特装車

当社の子会社の東海特装車では、お客様の様々な用途に応じた様々な“働く車”を提案しています。

移動販売車

空港手荷物運搬車

除雪装置付道路パトロール車

click「特装車商品ラインナップ」　click「東海特装車の活動」

環境にやさしいクルマ（超小型電気自動車コムス・燃料電池車）

新しいクルマ社会の実現に向けて

環境にやさしく、気軽に運転できる超小型 EV コムスは様々な用途で使われています。
水素社会の先駆けになるトヨタの燃料電池部品の開発・生産に取り組んでいます。

超小型ＥＶ コムス

click 「広がるコムス」

様々なシーンで活躍

環境にやさしく、小型で機動性が高いコムスは、配送・営業・買い物などで近距離を移動するのに適したクルマです。
東京では、駅近くの道路上にシェアリング発着専用スペースを設置する国土交通省の社会実験が始まっています。
また、空港のような駐車スペースが限られた施設では整備士の移動手段として使われるなど、活躍の場面はますます広がっています。

飲料宅配
（ヤクルト様）

シェアリング用車両
(Times Car PLUS×Ha:mo 様)

整備士の空港内移動
(JAL エンジニアリング様)

実証実験

国土交通省の「超小型モビリティ認定制度」を活用し、積載量をアップした配送用のコムスや行政サービス・シェアリング用途としての２人乗りコムスの実証実験が行われています。

愛知県名古屋市
配送用コムス（日本郵便様）

愛知県豊田市他
２人乗りコムス（シェアリング）

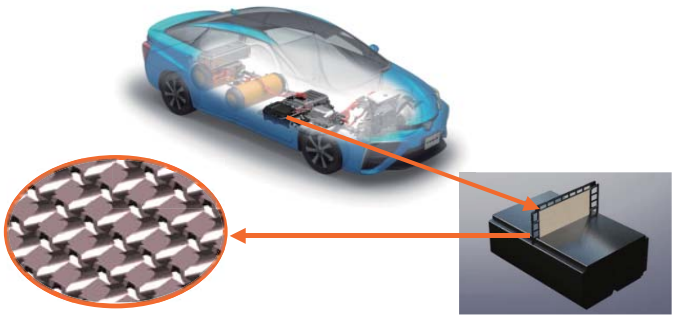
燃料電池部品

燃料電池部品の開発・生産

トヨタ自動車の燃料電池車「ＭＩＲＡＩ」の燃料電池スタック基幹部品に、当社が開発した「３Ｄファインメッシュ流路」が採用されています。

３Ｄファインメッシュ流路の加工には、当社独自の超精密・高速プレス加工技術を用いており、３次元的な微細格子構造の生産を可能としています。

＜トヨタ燃料電池車「ＭＩＲＡＩ」＞



３Ｄファインメッシュ流路（一部拡大）　燃料電池スタック

（画像提供：トヨタ自動車株式会社）

良い品質のクルマづくり

お客様を第一に考え、良い品質の商品をお届けします

私たちは、世界中のお客様に安全で安心して使って頂ける No.1 品質の製品づくりを目指しています。
世界中のお客様の声を現地現物で確認し、過去から学んだこと、日々の改善活動の推進とあわせて、「品質第一」という思いを全社員で共有しています。

お客様第一を全社員で実践するために

全社員へ「お客様第一」「品質第一」「現地現物」を浸透するよう、階層別の品質教育とともに品質 講演会・品質事例展示会などを定期的に開催し、「お客様の笑顔のために、仕事の質を高めていく」ことを改めて認識し、日々の仕事に繋げています。

＜品質月間　社長メッセージ＞

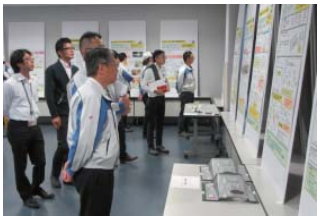
日頃は、多くの新製品プロジェクトへの対応や品質向上活動に対する全社をあげての推進に心から感謝を申しあげます。

我々のミッションは「**世のため、人のため、世界各地の生活を支え続けるもっといいクルマづくり**」です。
当社は、グローバルな商品企画・開発から車両生産まで一貫して担当していきます。

そのなかで原点は、「**お客様第一**」「**品質第一**」そして「**現地現物**」ですが、まだまだ多くのお客様にご迷惑をおかけしているのも事実であります。

そこで、今回の展示会では、過去に発生させた問題を振り返り、皆さん一人ひとりが「**お客様のために、仕事の質を高めていく**」と言うことを再認識して欲しいと思います。

＜品質事例展示会＞



現物を使った事例展示会

お客様の声を製品へ反映する

世界中のお客様の生の声を現地現物で調査、製品開発に反映しています。
2016 年度は昨年度に引続き、品質保証部門の担当者が自らお客様・市場ニーズを把握するため、市場での使われ方調査を行いました。

＜品質保証部門によるコースターおよび次期プロジェクトへの”お客様の声”現地現物調査例＞

過酷な環境下では
ランクル、ＬＸは
絶大な信頼を得ている・・・

代理店と市場情報の共有（ロシア）

納車前の入念なチェック・・・

販売店新車点検場訪問（日本）

click 「品質の取り組み具体例」：自工程完結活動、EDER 活動、お客様の評価

トピックス

オーストラリア　２０１７年　４×４　of　the　year　受賞、並びに、豪州 ANCAP５☆（最高ランク）獲得

オーストラリアで受賞！

安全性・商品性の向上、バリエーション拡充の結果、オーストラリアで『2017 年　4×4 of the year』　獲得。（受賞対象：ダブルキャブ）

更なる安全性の向上

世界中のお客様に使われ続けているランドクルーザー７０。
安全性をさらに高めた『シングルキャブ ピックアップトラック』を開発。
現地現物での調査・お客様の要望を商品に反映させました。（衝突安全性）

（2016 年 10 月に豪州 ANCAP 5☆ 獲得）

取引先様とともに

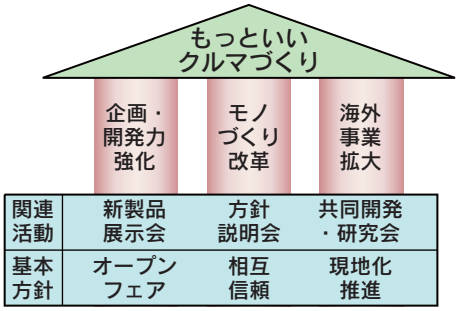
「もっといいクルマづくり」を目指して

オープンでフェアな取引を推進し、取引先様との相互信頼にもとづく共存共栄をめざした調達活動の実践により、もっといいクルマづくりに取り組んでいます。

調達の基本的な考え方

当社との取引を希望される国内外の全ての取引先様に対して国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず公正かつ公平な参入機会を提供しています。

そのために、当社では「調達の基本方針」を定め、調達活動をグローバルに展開し、取引先様と一緒にお客様第一を推進しています。

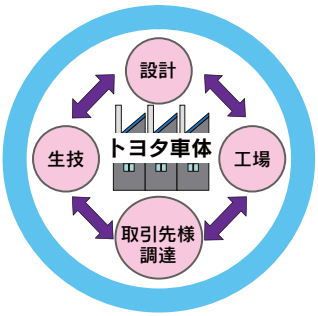


もっといいクルマづくりに向けて

「もっといいクルマづくり」を目指して

商品開発やものづくりを全てのサプライチェーンの皆様と一体となり提案

モデルチェンジを迎える車に対し、幅広く参入機会をつくることに加え、当社のクルマづくりを知って頂くために、取引先様に部品を見ていただく部品検討会及び取引先様からの新技術のご提案展示会等を開催し、全てのサプライチェーンの皆様と当社が一体となり、いいクルマづくりに向けて提案活動をしております。



四位一体化によるもっといいクルマづくり
（クロスファンクション開発オペレーション）

１次・２次取引先様も含めたＶＡ検討会

取引先様との情報共有

当社の動向や調達活動方針を 取引先様と共有するため、「調達方針説明会」（毎年３月）を初め、「経営講演会」（２回／年）、「ＣＳＲ勉強会」（２回／年）などを開催しております 。

click 「仕入先 CSR ガイドライン」（2013 年改訂）

click 「グリーン調達ガイドライン」（2016 年５月改訂）

取引先様による展示会

調達活動を支える取り組みについて

取引先様も参加しての勉強会による啓蒙活動

取引先様の協力会である「車体協和会」での研究会及び展示会や災害ゼロ化に向け「輸送研究会」・「安全衛生連絡会」など各種活動の勉強会を通した啓蒙活動を実施しております。

取引先様へのアンケート調査による調達活動への反映

オープンでフェアな取引と相互信頼をより強化する為に当社の調達活動を約３２０社の取引先様に評価していただき、ご意見・ご要望をお聞きしながら今後の調達活動に反映しております。

協和会優秀事例展示会

「輸送研究会」による相互研鑽

■人づくり、職場づくり

お客様の笑顔と感動を思い浮かべ

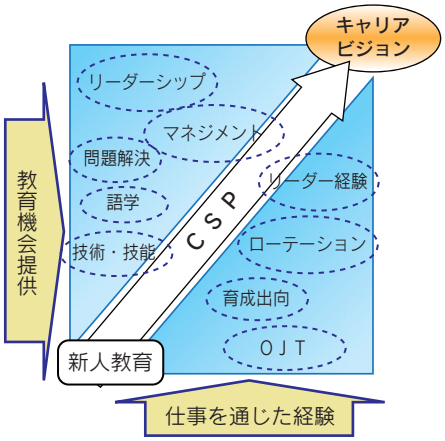
お客様に“満足”をいただける「いいクルマづくり」には、社員一人ひとりが活力ある職場でいきいきと働くことができ、従業員が持続的に成長していくことが重要です。そのために将来目指すキャリアビジョンを明確にし、グローバルに活躍できるプロ人材の育成カリキュラムも取り入れた人材育成のしくみを体系化して取り組んでいます。

人材育成の基本的な考え方

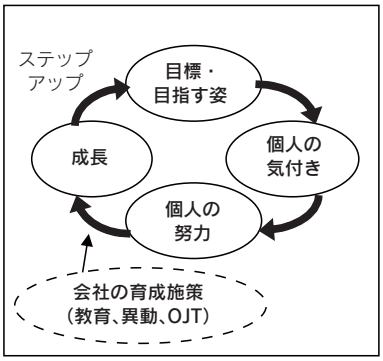
当社は、社員一人ひとりが将来目指すキャリアビジョンを持ち、主体的にいきいきと働く「自律型人材」の育成に力を入れています。

個々人に目を向けて、育成を計画的にサポートする「キャリアサポートプログラム（CSP）」を運用し、マネジメント研修、問題解決研修などの教育機会の提供と、ＯＪＴ、ローテーションや海外育成出向などの経験の付与により、個々人の成長を促進しています。

個人の成長を促進・サポートする仕組み



＜個人の成長サイクル＞



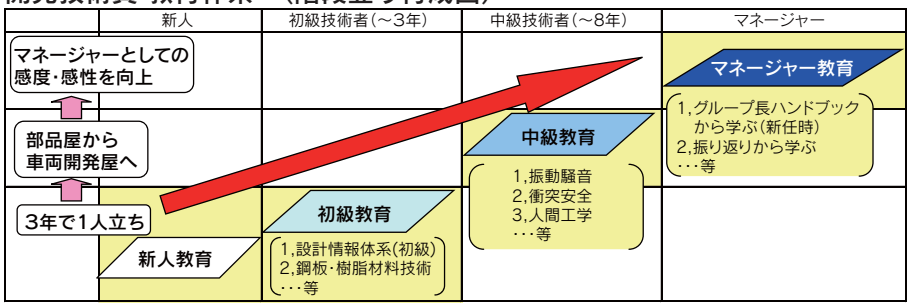
プロ人材の育成

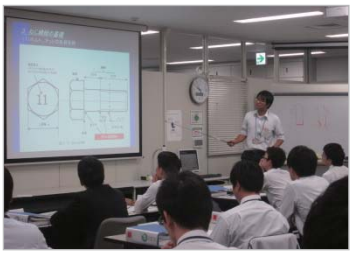
技術開発のプロ人材

技術開発教育は、開発の講義ルーム、教育展示場、CAD 教育場を使って、最新の実務に即した教育を現地・現物で、体感しながら実施しています。

１年目の新人教育後、３年目の初級教育、５年目以降の中級教育、グループ長のマネージャー教育へと、ステップアップする教育と職場 OJT により、開発のプロ人材を育成しています。

開発技術員 教育体系　（階段登り育成図）




新人基礎技術教育

新人 CAD * 教育
* CAD：Computer Aided Design

中級技術者教育（振動騒音）

グループ長研修（マネジメント）

生産技術のプロ人材

もっといいクルマづくり、もっといい工場づくりを目指し、現地現物での技術教育を実施しています。

１年目の新入社員教育では車両分解などの基礎技術教育を、２年目以降は先輩について仕事の仕方、物の考え方を学びます。また各階層に合わせた技術教育を行い、生産技術力の向上に取り組んでいます。

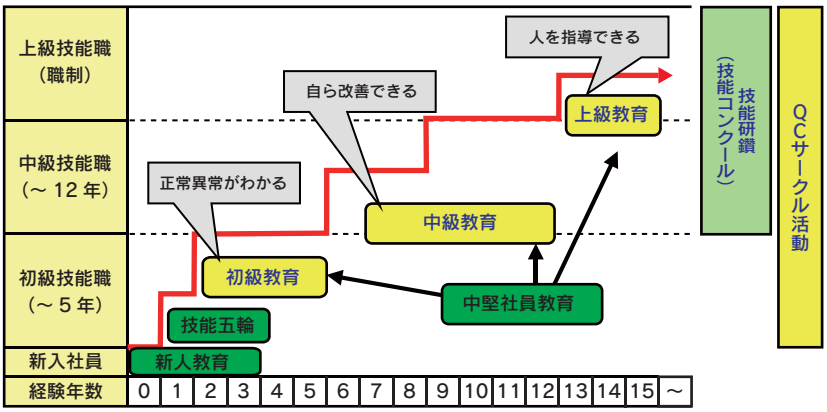
新入社員教育（車両分解）

若手技術者教育（要素機器）

生産のプロ人材

お客様に安心していただけるクルマづくりをするため技能を体系的に修得するとともに、国内外子会社も含めた技能研鑽やＱＣＣ活動に取り組んでいます。

技能系社員 教育体系



【新人教育】

職場配属前に専任トレーナーによる『基本技能訓練』を実施します。社員としての自覚・安全意識醸成のため、基礎知識教育にも力を入れています。
また、将来のリーダー育成を目指しチャレンジ精神のある人材を選抜して『技能五輪』に参画し、２０１６年には銅賞を獲得し技能向上を促進しています。

＜新人 基本技能訓練＞

専任トレーナーによる指導

＜技能五輪＞

２０１６年自動車板金職種「銅賞」
小森総一郎

【中堅社員教育】

資格に応じた技能と知識教育を段階的に実施し、実践に必要な原理原則については繰り返し修得するよう教育を実施しています。

【技能研鑽】

研鑽の場として国内外子会社も参加する『技能コンクール』を開催。ボデー・塗装・成形・組立・保全動力などの１０職種で競い合い技能向上を目指し取り組んでいます。

＜技能コンクール＞

組立職種

仕上げ職種〔スギティークリエーティブス（株）インドネシア〕

【技能トレーナー】

モノづくりの伝承のため、海外子会社の現地技能員の育成にも取り組んでいます。
日本人技能トレーナーの現地派遣や、現地ローカルトレーナーを日本で教育しています。

＜技能トレーナー育成＞

海外に派遣して教育
（インドネシアにて）

日本で教育（アメリカより）

【ＱＣサークル活動】

一人ひとりが問題解決能力の高い職場を目指し活動しています。
国内外の全関連会社の質向上の取り組みの一環として昨年、現地でのグローバルＱＣＣ大会（インドネシア大会）を初めて開催し現地関連会社３社４サークルが発表を行いました。車体からの優秀サークルも参加発表し相互啓発を行い更なる発展に繋げています。

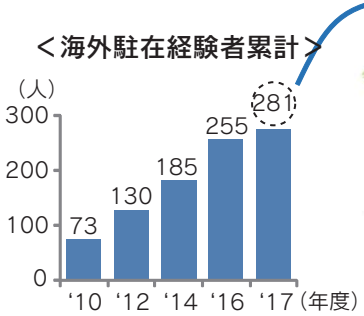
＜トヨタ車体グループＱＣＣインドネシア大会＞

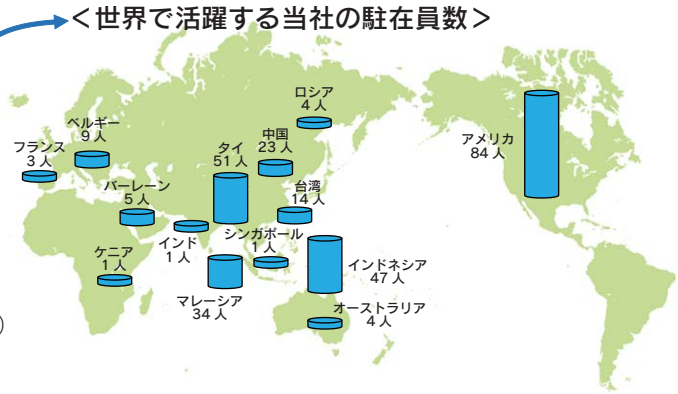
インドネシア大会発表の様子
（車体代表：レインボーサークル）

当社豊田常務から記念品贈呈
（インドネシア　ＲＰＴサークル）

グローバル人材の育成

オールトヨタ車体グループ全体の海外事業拡大のため、グローバル人材育成の充実に取り組んでいます。





【海外育成・デザイン研修出向】

海外事業展開に対応出来る人材の早期育成策として若手社員を対象とした育成出向制度を２０１１年度より導入しました。これまでに３８名の若手社員を海外事業体へ派遣し、帰任後は育成出向の経験を活かし海外関連業務に従事し、活躍の場を広げています。

また、デザイン部ではトヨタ自動車北米デザインスタジオ（CALTY）に研修生を派遣しています。

2017 年 1 月～ 研修中の 6 期生の声

現地スタッフへの生産状況報告

生産管理部　宗方 喜秀
（左から2番目）（タイ：TDEM）

英語で自分が意図していることを伝える難しさを実感していますが、伝えたことを皆が理解し、全員が同じベクトルに向かって動いている瞬間は非常にやりがいを感じています。
この経験を活かし、日本に帰ってからの業務に活かしたいと思います。

北米（CALTY）でデザインを検討する
デザイン部 平舘了輔

北米（TEMA）で研修する
ボデー生技部　斉藤公平（奥）

北米（APMM）で部品発注について
話しあうＦ工務部　安井美穂（左）

【海外コミュニケーション能力の向上】

海外で通訳なしで業務遂行できるレベルを目指し、海外支援者を対象に英語研修を実施しています。

ネイティブ講師による技術指導英語を中心とした事技コースと基本的な英会話や技能指導英語を学べる技能コースを実施しています。

ネイティブ講師と会話を通じて
英語力アップを図る

英語で技能指導をする受講者

海外ローカル人材の育成

海外事業体自立化に向け、現地のリーダー候補を対象に海外実習生を受け入れ、日本での「グローバル実習」を実施しています。

コミュニケーションを通して、互いの文化を知る機会をつくり、積極的に交流を図っています。

帰任後、成果を説明する実習生
〔タイ：トヨタオートワークス（株）〕

実習生との交流を通じて異文化を勉強
する受入職場メンバー（京都研鑽会）

ダイバーシティの推進と良き社会人であるための意識啓蒙

多様な人材が安心していきいきと働けるよう、ダイバーシティに対する取り組みを推進しています。
また、良き社会人であるための意識づくりにも努めています。

ダイバーシティに対する取り組み

女性の活躍推進

仕事と育児の両立を支援するため、育児休職制度や社内託児所の設置など、『働き続ける』ための環境を整備しています。

更に、柔軟な短時間勤務制度や部分在宅勤務といった制度の拡充や、女性の能力発揮を支援する上司向けのセミナー実施など、『イキイキと活躍』できる環境整備にも積極的に取り組んでいます。

click 「妊娠・出産から子育てにわたるサポート」

部分在宅勤務

女性部下を持つ上司向けセミナー

高齢者の働き方支援

〈働きやすい工程づくり〉
すべての人がいきいきと働き続けられることを目指し、誰でも働きやすい「らくらく工程づくり」を推進しています。

〈体力低下防止に向けた意識改革の場づくり〉
４０才・５０才の方を対象に「意識づけセミナー」を開催し、「働き方」、「資産形成」、「体力づくり」に関して早い段階から計画的に考える機会を設定しています。

体への負担の少ない作業改善例
（らくらくシート導入）

意識づけセミナー（体力づくり）

障がい者の雇用促進

２０１６年度の障がい者雇用率は２.３９%、１９０名が正社員として勤務しています。

入社を希望する高校生とその家族向けの「インターンシップ」や配属職場の上司を対象とした「手話教室」などを実施し、障がい者の活躍支援に積極的に取り組んでいます。

インターンシップでの作業体験

手話教室

良き社会人であるために

人権意識の深化

「個人の尊重」の意識向上をねらい、同和問題や女性・外国人の人権等、様々な人権課題についての社内教育を、全社員に対して行なっています。

また、社外研修にも社員を積極的に派遣し、部落問題をはじめとする人権問題のスペシャリストの養成にも力を入れています。

社内教育（新人研修）

人権パネル展示会（工場）

社員の心身両面の健康をめざして

もっといいクルマづくりをしていくためには、社員が健康であることが重要であると考え、
“こころ”と“からだ”の健康で充実した会社生活をおくれるよう、きめ細かいフォローを推進しています。

健康で充実した会社生活をおくるために

従業員一人ひとりが自立的に健康保持増進のできる人づくりを目指して、メンタルヘルスの保持増進、生活習慣改善、禁煙活動、がん対策を重点として活動を推進しています。

親しみの持てる心の相談室を目指して

富士松・いなべ・吉原工場へメンタルヘルスの専門家である臨床心理士を配置し、相談体制を整備しています。

また、ストレスチェックを全従業員へ実施し、高ストレス者への面談実施と職場診断結果を活用した職場環境改善のための職場懇談会を実施しています。併せて個人のストレス耐性強化をねらい、セルフケア教室を実施しています。

＜ストレス耐性強化：セルフケア教室＞

健康な習慣を身に付けるために

生活習慣を見直すきっかけを与えるために新生協会館３階へ健康づくりフロアを 2017 年 7 月にオープンさせます。

健康づくり教室や体力測定、仕事の行き帰りに自由に使えるトレーニング施設として活用することで従業員の健康度向上を推進していきます。

＜トレーニングルーム＞

＜体力測定＞

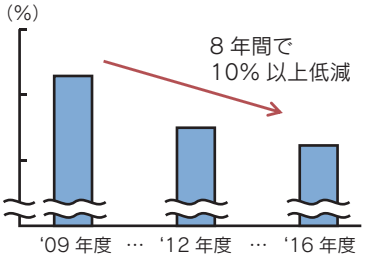
禁煙者創出のために

生活習慣病を引き起こす最大のリスクファクターである喫煙を防止するために全社喫煙対策プロジェクトを立上げ、各職場より禁煙チャレンジャーを募り 2016 年度は 234 人が禁煙へチャレンジ、117 人の方が見事に禁煙に成功しました。

また毎月 22 日をトヨタ車体禁煙デーとして禁煙のきっかけづくりを継続的に実施しています。

＜禁煙挑戦に向けた導入教育＞

＜喫煙率の推移＞

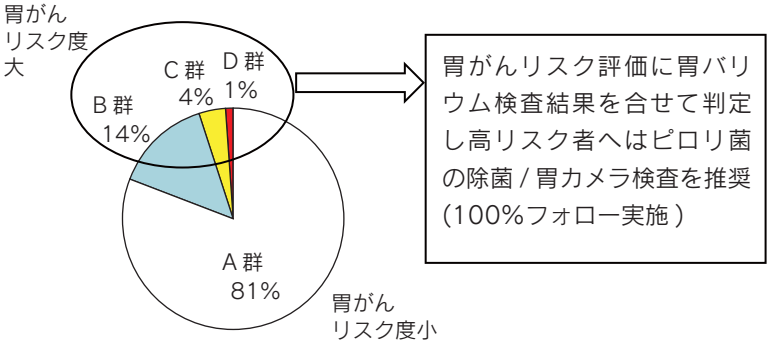


がんの早期発見対応のために

各種がん検診を自己負担なしで社内検診として実施し、がんの早期発見と適切な治療を実施できるよう外部医療機関へ紹介しています。

2016 年度は胃バリウム検査に加えて胃がんリスク評価を導入し、胃がん検診を充実させています。2017 年度は乳がん、子宮頸がん検診を新たに実施し、がん対策を推進していきます。

＜胃がんリスク評価実施結果＞



安全第一を最優先に「安全な人と職場づくり」を推進

トップの安全第一の場づくりと社員一人ひとりの安全感性を高める活動の強化など
取引先様、海外子会社全てでゼロ災害を目指し活動を推進しています。

全社員の安全第一に向けて

トップの安全第一の場づくり

全社安全大会で「全員で安全文化を構築しましょう」をスローガンに、社内役員・部課長及び関連子会社トップを含め全員で唱和し、災害ゼロの実現を誓い合いました。

また、９月にはトップによる安全活動現地確認会の場を設け、災害未然防止に向けた部・課長のフェルトリーダーシップ発揮や、設備のリスク低減活動状況の確認を行い、トップ自ら安全第一を実践しています。

２０１６年７月全社安全大会

２０１６年９月トップによる現地確認

全社員の安全感性を高める活動

交差点での指差呼称、階段での手摺保持など５つの基本行動を決めて、一人ひとりが自分の身を守るために「ポ・ケ・手・な・し」活動を展開しています。

また、全社員の安全感性を高めるために始めた全社ＫＹ教育では、専任のＫＹトレーナーを工場毎に配置し、体験型でのＫＹ（潜在危険抽出）訓練を、日々行って災害の未然防止に努めています。

のぼりによる周知展開活動

脚立作業を体験し、潜在する危険要因を抽出

取引先様の安全第一に向けて

例年、輸送業者の方たちにご賛同いただきフォークリフト運転時の安全確保の為の勉強会やフォークリフト作業における基本動作の目線合せ、困りごとの吸上げ・対策を実施し、物流における災害防止にも努めています。

また当社敷地内における災害発生をゼロにしたいとの考えのもと、取引先様や外来工事業者の方たちと連携し、安全活動に取り組んでいます。

全輸送業者へのフォークリフト安全ルール勉強会（当社技能育成センター）

協議会による巡回パトロールにて指導を実施

海外事業体の安全第一に向けて

海外でも安全な人づくりが重要との考えのもと、日本と同様の体験型ＫＹ（潜在危険抽出）訓練を、安全道場を開設し実施しています。

また特に高リスクなクレーン作業は、現地トレーナーを日本側で研修することで、事業体毎にバラツキがでない安全なクレーンオペレーターづくりに繋げています。

シートベルトの装着体感

安全道場での人づくり活動
インドネシア（ＳＣ）

日本でのクレーントレーナー研修（APMM）

click「安全体感道場（TABMEC）」

click「労働災害発生状況」

click「安全衛生基本方針」

コンプライアンス・交通安全・防災意識の高い「健全な職場づくり」を推進

全社員のコンプライアンス意識の向上を目指して

ＣＳＲ委員会の下部組織として「企業行動倫理委員会」を設置し、法令遵守のしくみ充実、健全な企業風土の構築に向けた活動について審議・方向付けを実施し、トヨタ車体グループのコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。また、社員へのコンプライアンス徹底のために、「私たちの約束すること（グループ行動指針）」を教育・研修などの場を通じて継続的な徹底を図っています。

click トヨタ車体グループ行動指針　（2005.3 月発行）

コンプライアンス徹底に向けた取り組みの充実

ビジネスがグローバル化する中、トヨタ車体グループ全体で国内外のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

国内においては、主体的にコンプライアンス活動を推進できるツールを整備するとともに関連会社も含めて勉強会を開催するなどグループ全体で定期的な啓発活動を実施し、コンプライアンス意識の維持・向上を図っています。

海外においては、国内の取り組みをベースに従業員の意識向上に向けた取り組みや海外赴任者・海外業務従事者向けの教育を実施しています。

〈国内コンプライアンス活動〉

顧問弁護士からコンプライアンス指導を受ける国内子会社担当者

〈海外コンプライアンス向上への取り組み〉

専門弁護士から各国コンプライアンス指導を受ける海外業務従事者

交通事故を起こさない人づくりを目指して

自動車製造業を生業とする企業として「交通事故を起こさない人づくり」を目指し、社員ひとりひとりの意識向上を図ることを目標に、全社を挙げて交通安全活動の充実を進めています。

社員への交通安全教育

従業員全員の運転技能レベルの向上を目的とした活動を展開しています。
ドライブシミュレータでの運転適性診断や二輪利用者へのライダースクールを実施し、社員ひとりひとりの交通安全意識向上を図っています。

〈社内交通安全教育〉

ドライブシミュレータの活用により、運転技能レベルの見える化を推進

白バイ隊員からバイク運転の指導を受ける参加者

社員家族・地域に向けた啓蒙活動

社内イベントで交通安全コーナーを開設し、来場者への啓蒙活動を行っています。
また、「交通事故撲滅」を目指した活動として当社オリジナルの「おおきに運転」を啓発し、交通事故低減に向けた呼びかけを全社一丸となり取り組んでいます。

【おおきに運転】
「お」…横断歩道は歩行者優先
「お」…お年寄りを守ろう
「き」…黄色信号は停止のサイン
「に」…にっこり快くお先にどうぞ

〈家族・地域に向けた啓発活動〉

交通安全マスコットのイベント参加等、啓発機会の拡大を狙った活動を実施

当社オリジナルの啓発活動を展開し、より具体的な安全運転の啓発を推進

いなべ火災の教訓を活かし、防火・防災意識の高い職場づくりを目指して

３月にいなべ工場で発生した火災を教訓にして、今後二度と起こさぬよう全社を挙げて再発防止に取り組んでいます。

被災現場の徹底分析により真因を特定し、熱風モレの視える化や、ダクトの亀裂対策等を全社に展開するとともに、火災を風化させないための防火・防災の啓蒙活動を継続してまいります。

被災現場を徹底分析

初動対応の経過から教訓を学ぶ

大震災に備えた総合防災訓練

３工場同時に日時非公開の総合防災訓練を実施し、スムーズな屋外避難や安否確認・被災者救護の他、新防災センターでの初動本部訓練等を織込み、より実践的な訓練を実施しました。また、実践力向上をねらい初動本部や突発型模擬訓練も実施しました。併せて、全社員とご家族に「災害対応手帳」を配布し、地震発生時の行動や安否確認方法等について再徹底しました。

富士松

自衛消防車による消火訓練

初期消火訓練

いなべ

ブロック本部による安否確認

救護所での救急搬送

吉原

階段避難器具による搬送訓練

リヤカーによるケガ人搬送

新防災センターでの初動本部訓練

実践力向上をねらった突発型模擬訓練

災害対応手帳の配布

全社ＢＣＭ活動の推進

南海トラフ地震による大規模被災を想定し、ＢＣＭ* 委員会組織で対策の充実強化に取り組んでいます。

〈BCM活動の基本方針〉

(1) 人道支援（人命第一・救援）

(2) 被災地の早期復旧

(3) 自社の業務復旧

〈推進体制、主な活動〉

ＢＣＭ*委員会
- 減災：建屋、設備の耐震対策
- **初動：初動対応体制の構築、安全な避難および安否確認の訓練**、地域連携
- 生産復旧：全社業務・生産復旧体制の強化、サプライチェーンの強化

*：Business Continuity Management（事業継続マネジメント）

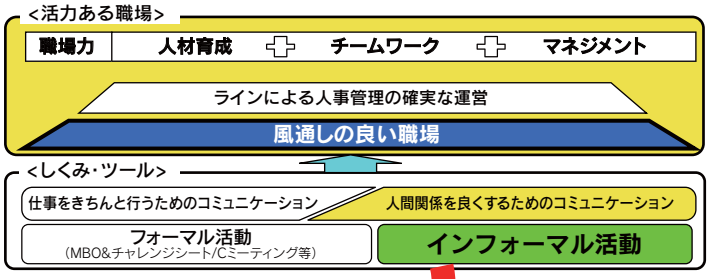
「活力ある職場づくり」に向けたコミュニケーション活動

社員一人ひとりの幸せと会社の発展を支える活力ある職場風土をつくるため、フォーマル・インフォーマル両場面でのコミュニケーションの活性化、一体感の醸成を図っています。

明るく楽しく元気良い職場をめざして

フォーマル活動として、上司との面談や小集団活動などを通じて、また、インフォーマル活動として、各種イベントを通じて、職場や職位の枠を超えたコミュニケーションの充実や一体感の醸成を図っています。
2016 年度はＣＶ Company の一体感を感じられるようトヨタ・トヨタ車体の相互のイベント参加を通じた交流を実施しました。

コミュニケーション活動を通じた活力ある職場づくり



【全社】

経験の有無にかかわらず楽しめる工夫をした「トヨタ車体グループ フットサル大会」

社内代表チームを決める「ビッグホリデイ予選会」

【オールトヨタ】

各社対抗スポーツ大会など、多彩な催事の「オールトヨタビッグホリデイ」

【トヨタ ＣＶ Company】

ＣＶ Company の仲間として
トヨタ駅伝大会に初参戦

【事業所別】

富士松地区 HAPPY FESTA

開発部門 カート大会

吉原工場運動会

スポーツクラブを通じて、社員の一体感醸成と社会への貢献

国内トップリーグに所属するハンドボール、バレーボールクラブの応援を通じて、社員の士気高揚・一体感の醸成、並びに、地域のスポーツ活性化や次世代育成に取り組んでいます。

ハンドボール・バレーボールクラブ

日本リーグで活躍するトヨタ車体ハンドボールチーム「BRAVE KINGS」、Ｖリーグで活躍するバレーボールチーム「クインシーズ」のスポーツ活動を通じて、社員の士気高揚・一体感の醸成、並びに、積極的に社会へ貢献しています。

高松宮記念杯第６回全日本社会人　ハンドボール選手権大会　優勝

２０１６/２０１７Ｖ・プレミアリーグファイナル６　５位

職場をあげてチームを応援

トピックス

被災地東北でスポーツ選手の出前授業

ハンドボール門山選手

「夢先生・スポーツ心のプロジェクト」出前授業

click「スポーツクラブ　ハンドボール」　click「スポーツクラブ　バレーボール」

トピックス

ダカールラリー2017　市販車部門４連覇

世界一過酷といわれるダカールラリーにてランドクルーザーの耐久性、走破性、信頼性を実証するとともに、チームメンバーに社員を起用し世界の大舞台でチャレンジし、もっといいクルマをつくる人を鍛え、得られたノウハウや経験を「もっといいランドクルーザーづくり」に活かし、世界中のお客様の生活に笑顔と感動をお届けしてまいります。

当社近隣地域の方々などから提供いただいた廃食油を精製した環境にやさしいバイオディーゼル燃料を１００％使用して参戦しており、環境に配慮した代替エネルギーを使用したクルマの部門においても、7 年連続の優勝。

click「ダカールラリーＨＰ」

TLC 壮行会、従業員に加え近隣地区地区長、近隣中学校、高校など関係者約 500 名が参加

■社会貢献

社会から必要とされる企業を目指して

社会から必要とされる企業であるためには、企業として社会的責任を果たし、地域のみなさんから信頼されることが大切であると考えます。
わたしたちは、トヨタ車体グループらしさを活かした領域（環境・福祉・次世代育成）で、社会貢献活動の充実に取り組んでいます。

環境分野での取り組み

森林整備活動

愛知・三重・岐阜・鹿児島・インドネシアなどの事業所の所在地を中心に、「トヨタ車体グループ企業の森」整備活動を継続的に行っています。

【国内】

「愛知企業の森」整備活動では、社員自らが指導者となり、初めて参加する方にも、安全に間伐・森林整備が体験できるよう、ボランティアサークルメンバーを中心に取り組んでいます。

【海外】

インドネシアの植林活動は、マングローブ植林を通じての環境保全に加え、再生したマングローブ水域での、魚介類・海藻類の養殖を通じて、地域経済向上にも貢献しています。また２０１６年度より地域住民と従業員が一体感を得られるよう「地域参加型での植林活動」にも取り組んでいます。

愛知県豊田市羽布での森づくり活動

社員指導者より安全な間伐方法を学ぶ

５年をかけて成長した
インドネシアのマングローブの森

ジャカルタ近郊にあるキャンプ場での植樹式の様子

福祉分野での取り組み

子会社と連携した絵本の寄贈

インドネシア子会社と連携し、翻訳した日本の絵本を現地の子どもたちに寄贈。
２００９年より毎年実施しており、これまでに 累計５万冊を超える絵本を寄贈しています。

インドネシアの現地の子どもたちに翻訳寄贈された絵本

絵本を受け取りうれしそうな子どもたち

ブロック、サークルが連携した移送サービス

当社製品である福祉車両を使って、日頃外出機会の少ない方々の外出支援として、移送サービスを実施。
知立市社会福祉協議会とトヨタ車体「外出支援サークルボランティア」メンバーが協働で、車いす利用者の外出支援活動を継続し実施しています。

知立市の視覚障がい者の方々を当社福祉車両で田原市のメロン狩りに案内

障がい者理解と支援活動への積極参加

富士松ブロックならびに施設慰問サークルボランティアメンバーが、高齢者介護施設での慰問活動として、フラダンス・手品など腕前披露や、車いす・介護機器・福祉車両清掃などを通じ、障がい者理解並びに支援活動を行っています。

刈谷市の高齢者介護施設にて
フラダンス披露で高齢者との交流

車いす清掃は年６回、
６年前より活動

次世代育成分野での取り組み

中学生職場体験学習の受け入れ

生きた学びの校外学習として職場体験学習の受入れを実施しました。プログラムは開発から生産までの内容を織り込んだ完成車両メーカーらしさを活かしたものとなっており、刈谷・知立の全９校７５名の中学生の受入れを行っています。

デザイン部員から指導を受けながら
クレイモデルづくり体験

板金匠の技学習で波皿づくりを体験

ものづくり教室への指導員派遣

当社で培われた ものづくりの技術をもつ多くの指導員をあすて「クルマづくり究めるプロジェクト」活動に派遣しています。子供たちがものづくりの達人と出会い、ものづくりに挑戦し、その楽しさ、達成感を感じ「ものをつくる心」を育むための活動を行っています。

塗装コースの生徒が下地処理を体験

活動のおわりでの発表会の様子

スポーツを通じた次世代育成

刈谷市の青少年スポーツへの支援として『トヨタ車体カップ少年サッカー大会』を１９９５年より協賛し、大会運営サポートを行ってます。
また、ハンドボール部主催で、県内外中学生チームを招待し『ＴＡＢ Ｃｕｐ』ハンドボール大会を開催し、当社部員が大会運営を務めるなど、選手とのふれ合い、スポーツの普及にも貢献しています。

刈谷市内小学４年生 500 名が
参加してのサッカー大会

ハンドボール部員が審判を担当し
中学生と交流するハンドボール大会

寄贈協賛による社会貢献

独身寮自治会では近隣の老人ホームに車いすの寄贈を行っています。２２年前より継続しているこの活動は５００名の寮生によるもので、これまでに７７台を寄贈しています。
その他にも職場別の活動として製作したクリスマスツリーや七夕かざりを刈谷市近隣の幼稚園や小学校に寄贈しています。

刈谷市の老人ホームに車いすを寄贈

幼稚園にクリスマスツリーを寄贈

災害支援による社会貢献

熊本被災地復興支援活動

２０１６年４月に発生した「熊本地震」の支援活動として、生活支援物資や「義捐金」の寄付、ハンドボール部主催の「復興支援チャリティーイベント」を開催し、チームグッズの売り上げを被災地に寄付しました。
また、鹿児島にある国内子会社と連携をし、被災地ニーズに合わせ復興に向けたボランティア活動を行いました。

熊本県知事を訪れ義捐金を寄付する
当社役員、ハンド部社員、労組委員長

益城町の倒壊した家屋の復旧作業に
参加するボランティア社員

地域とふれあい、生物多様性を学ぶ憩いの『刈谷ふれ愛パーク』

施設を活用した、地域貢献・地域連携

ふれ愛パークでの環境教育・農業体験などパークの運営について、地域・外部専門家・近隣学校・県市などの行政・地域農業指導者などで構成する『ふれ愛パーク地域連絡会』を組織し、活動を一過性で終わらせず、永続的に続けるために協働をはかり、地域との“ふれ愛”の場を目指しています。

地域と連携した農業体験学習では、社員並びに地域の農業指導者が先生となり、小学４年生の社会・総合学習授業の一環として、苗づくり、田植え、稲刈り、脱穀、餅つき、わらを使ったしめ縄づくりと、年間を通じて農業・稲作体験学習を行いました。

どの児童も、泥田に入っての田植え、カマを持っての稲刈り、しめ縄づくりなど今まで経験できなかった事を学ぶことができ、更に水田の役割など環境についても学ぶ事ができました。

地域との交流では、ふれ愛パークをより身近に親しんでいただけるよう季節に合わせた様々な参加型イベントを開催しています。祭りを中心にその他にも農業体験として稲作や芋ほりを実施しています。

click「刈谷　ふれ愛パーク」

近隣の小学４年生による田植え体験

多くの来園者で賑わう夏祭りの様子

大きな芋が掘れ喜ぶ子供たち

収穫祭でのもちつきの様子

産官学民連携による環境学習

「ふれ愛パーク」を会場に、行政・大学・近隣小学校、地域と連携した環境学習会を開催。
講師は、愛知教育大学助教並びに理科専攻学生にお願いし、県内小学生家族の皆さんを対象に、水辺の植物や水の浄化など自然をテーマに学習会を開催しています。
その他ふれ愛パークでのイベントに合わせ自然教室も開催しています。

ビオトープの動植物生息調査

講師の助教（右）と愛教大学生（左）による環境学習会

近隣小学生への出前授業を開催

キャンプの翌日に自然教室を開催し夏休みの宿題に活用

■地球環境にやさしく

生産技術本部・生産本部 統括
取締役副社長　石黒　明二

地域と共生、自然と調和する工場を目指して

当社は基本理念に“環境との調和”を掲げ、持続可能な社会の実現をめざし取り組んでおります。

2016 年度は、地球規模の環境問題に対し長期視点で環境負荷削減にチャレンジする「トヨタ車体　長期環境ビジョン」を策定しました。具体的には、5年毎に定める環境取り組みプラン〔現在は第6次（2016～2020年度）〕にて計画し、トヨタ車体グループ一体となって取り組んでまいります。

トヨタ車体　長期環境ビジョン

２０５０年に向け６つの領域で取り組む事項を設定
・モノづくり力を活かし、工場 CO_2 ゼロ等の環境負荷削減にチャレンジ

：トヨタ車体のロゴマーク

click 環境基本方針

click 2016 年度取り組み結果

click 第６次「トヨタ車体環境取り組みプラン」

「トヨタ車体環境取り組みプラン」

1993	1995	2000	2005	2010	2015	2020
第１次	**第2次**	**第3次**	**第4次**	**第5次**	**第6次**	
◇環境取り組み体制の整備	◇ISO14001 の導入による取り組みレベルの向上	◇埋立廃棄物ゼロエミッションと活動領域の拡大	◇CO_2 削減への対応と製品の環境配慮設計	◇超小型 EV の開発推進 ◇地域と共生した工場づくり	◇グローバルで環境負荷低減 ◇生物多様性保全への対応	

第６次　トヨタ車体環境取り組みプラン

分野＼領域	低炭素 社会の構築	循環型 社会の構築	自然共生 社会の構築
製品環境（開発設計）	・**車両軽量化による燃費向上** (P.11) ・超小型EVの開発と導入促進	・**車両の解体性向上** (P.11) ・**リサイクル材の使用拡大** (P.11) ・**コムスのリサイクル事業** (P.33) ・**植物を利用した材料開発** (P.34)	・**製品含有化学物質の管理充実** (P.34) ・環境負荷の少ない製品への代替え推進
生産環境（生産）	・**低CO_2生産技術開発・導入 生産性向上、省エネ改善活動** (P.13、P.35)	・**排出物の低減**と歩留り向上活動	・**塗装における環境負荷物質(VOC)の低減** (P.13) ・**地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進** (P.30)
環境マネジメント（環境経営）	・**連結環境マネジメントの強化、推進** (P.36) ・**環境啓発、教育の充実と推進** (P.36) ・環境リスク未然防止の強化、推進 ・**仕入先と連携した環境活動の一層の推進** (P.36)		

(P.　) 内は、掲載頁

推進体制と実施事項

ＣＳＲ委員会
（委員長：増井社長）

- **製品環境委員会**（委員長 中根常務）
  - 燃費向上ＷＧ
    - ・自動車の燃費向上に寄与する軽量化技術の開発と製品化
  - リサイクル・解体性向上ＷＧ
    - ・解体しやすい設計による解体時間短縮の推進
    - ・廃棄されるコムスのリサイクルシステムを構築し、2015年4月より実施
  - 化学物質対応ＷＧ
    - ・規制化学物質に対する代替え技術の開発と切替え
    - ・規制環境負荷物質（鉛、水銀等）に対して、新製品・量産化での非含有確認、及び管理体制の監査を推進
- **生産環境委員会**（委員長 須田常務）
  - 工場生産環境委員会
    - ・環境異常苦情リスクアセスメントと改善
    - ・第6次プラン目標達成活動（CO_2、VOC（揮発性有機化合物）、廃棄物等）
  - 生技省エネルギー委員会
    - ・CO_2の少ない生産技術開発、工場改装等での省エネ型ラインづくり
    - ・エネルギー供給効率の向上、再生可能エネルギーの導入
  - 連結子会社生産環境委員会（国内・海外生産会社）
    - ・全トヨタ車体グループでの環境取り組み活動の横展
    - ・各事業活動での環境負荷低減活動の展開
    - ・環境リスク未然防止の推進
- 社会貢献委員会
- 企業行動倫理委員会

製品環境

3 大重点テーマ：**低炭素** 循環型 自然共生

トップクラスの燃費性能に寄与する軽量化技術の開発

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境問題と考え、
関係部署と連携し環境にやさしいクルマづくりを設計段階から取り組み技術開発を進めていきます。

車両部品の軽量化技術の開発

燃費向上には、パワートレインの改良とともに、車両の軽量化も欠かせません。
そのため、車両部品の軽量化は当社の基幹技術であると考え、全社で連携しながら積極的に取り組んでいます。

ボデー・内張り部品・外装部品の軽量化に向けた主な取り組み

【コースターの事例】
→　「もっといいクルマづくり」の中、「環境性能」　P.11 に掲載

3 大重点テーマ：低炭素 **循環型** 自然共生

リサイクルの積極的な取り組みと資源の有効利用の推進

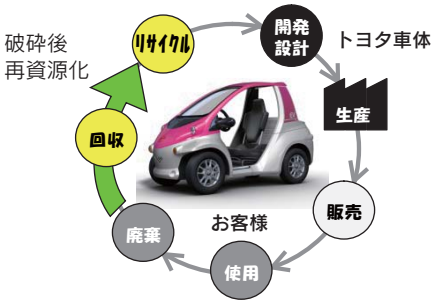
あらゆる資源は有限であるという認識のもと、3R(Reduce, Reuse, Recycle) を柱にして、
解体性向上、リサイクル材の使用拡大、植物材料の開発・設計に取り組んでいきます。

超小型電気自動車コムスのリサイクル事業

２０１５年４月からスタートした「コムスリサイクルシステム」は、自動車リサイクル法適用外のコムスに対し、当社が独自に構築したリサイクルのしくみであり、不要となったコムスを適切にリサイクルしています。
今後も資源循環型社会の実現に向けて、適切なリサイクルに取り組んでまいります。

鉛バッテリー回収

コムスのライフサイクル



コムスの引き取り・運搬

リサイクル実績（16 年度）

全国で不要となったコムスを引き取り、
18 台のコムスをリサイクルしました。
（内旧型 14 台）

click コムスリサイクルシステムのホームページ

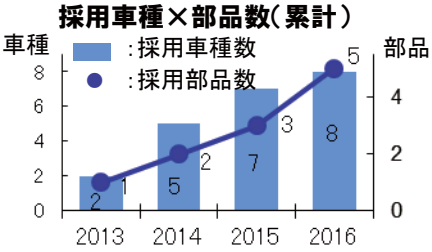
植物材料を利用した材料開発

木材の軽さ、熱に対する強さを活用

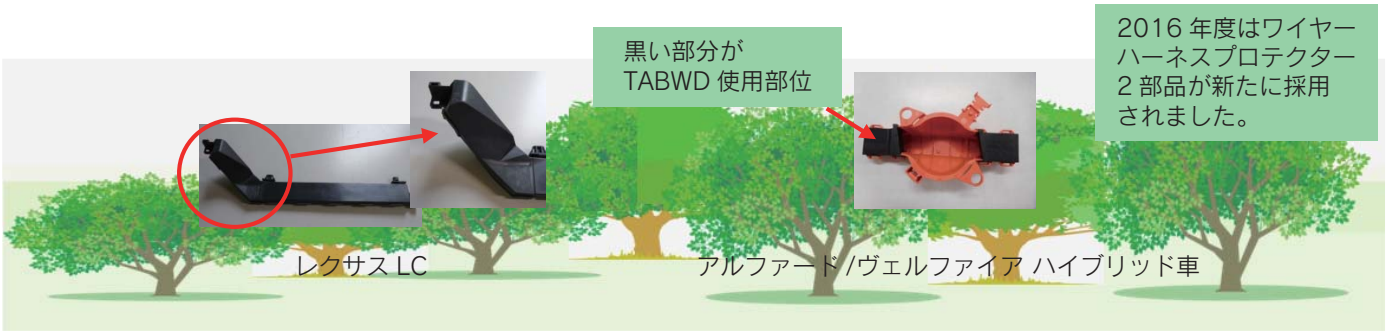
スギ間伐材を強化繊維として利用した難燃性射出材料「TABWD/ タブウッド」*1 を開発。
補給用フォグランプブラケットを皮切りに採用実績を重ね、部品の軽量化に貢献しています。

*1.TABWD：Toyota Auto Body WooD plastic

微細木材繊維　TABWD



採用部品の例（ワイヤーハーネスプロテクター）



3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

製品に含有する化学物質管理の推進

原材料・部品などの取引先様と連携し、製品に含有する化学物質の使用把握とリスクを評価し、化学物質管理や環境負荷の少ない物質への転換など環境保全に努めていきます。

ＲＥＡＣＨ規則など、世界の化学物質規制への確実な対応

化学物質規制は日本の化審法 *1、欧州の ELV 指令 *2、REACH 規則 *3 などがあるほか、北米・アジアでも独自の規制を設けています。

こうした国際的な化学物質規制を受け、当社ではトヨタおよびサプライヤーと協力して IMDS *4 登録などの化学物質管理の仕組みを構築し、運営しています。

2016 年 5 月には、「グリーン調達ガイドライン」を改訂し、コースターほか新製品での化学物質管理の推進をサプライチェーンに展開しています。

*1. 化審法：化学物質の審査および製造の規制に関する法律
*2.ELV 指令：End of Life Vehicles　使用済み自動車に関する指令
*3.REACH 規則：Registration,Evaluation,Authorization and Restriction of Chemicals
化学物質の登録, 評価, 認可及び制限に関する規則
*4.IMDS：International Material Data System　自動車業界向けの材料情報システム

環境負荷物質　担当者の声

材料技術部　藤崎　月之介

今年度はコースターを重点に生産拠点の岐阜車体、サプライヤーとも連携をとり化学物質をきっちり管理することで、人や環境に優しい車造りに努めました。

click グリーン調達ガイドライン（2016 年 5 月改訂）

生産環境

3 大重点テーマ：低炭素　循環型　自然共生

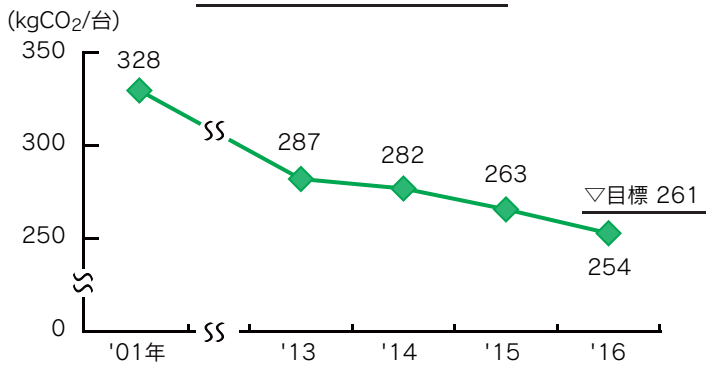
生産活動における環境負荷低減

CO_2・VOC(揮発性有機化合物）など排出量の少ない生産技術開発・導入や日常改善による徹底的な省エネの取り組みを推進しています。

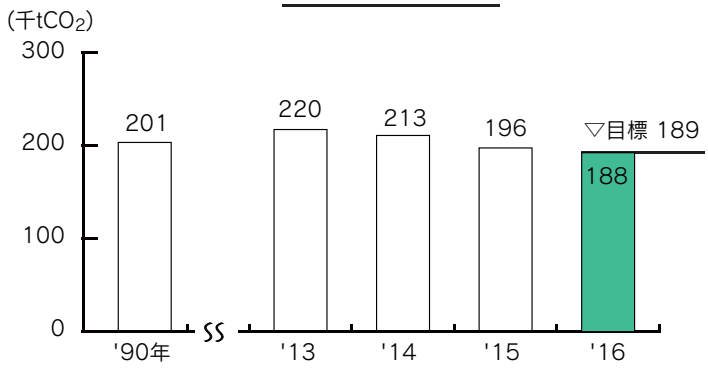
生産工程の CO_2 低減活動

2016 年度は台当たり CO_2 排出量 (連結) と CO_2 排出量 (当社) の目標を達成できました。

台当りCO_2排出量(連結)



CO_2排出量(当社)



環境負荷の少ないクルマづくりを目指して

【コースターの事例】

→　「もっといいクルマづくり」の中、「もっといい工場づくり」　P.13 に掲載

日常改善の取り組み

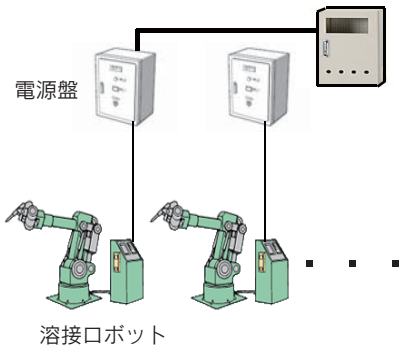
待機時にエネルギーを極小化するための課題解決や省エネ診断による新たな気付きによる改善を加速しました。

非稼働時に停める工程作り

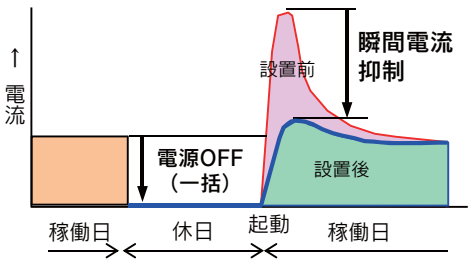
溶接ロボットの休日待機電力を低減する為、電源を一括操作できる制御盤の設置により電源 OFF ができました。

従来、設備起動時の瞬間電流によりロボットの故障が懸念さ れていたが、メーカーと協業して抵抗体の仕様設定・取付けによる電流抑制にて、故障リスクを排除できました。

溶接ロボットの電源系統



溶接工程　電力推移



＜削減効果＞

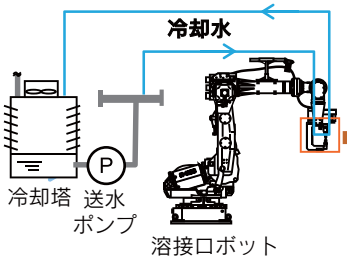
CO_2削減※
▲500tCO_2/年

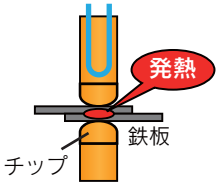
※効果検証中

省エネ診断による改善

ロボット溶接電流の低減技術による発熱量を減少させ、生技と製造部門が協業して冷却水の通水量削減を実施し、送水ポンプ等のエネルギーを少なくしました。

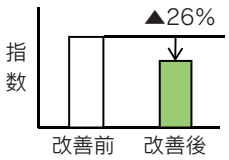
溶接ロボットの冷却フロー





通電時の発熱を冷却水にて抑制し、チップを保護する事で溶接不良を防止

通水量削減 結果



＜削減効果＞

CO_2削減
▲200tCO_2/年

冷却水通水量削減　担当者の声

ボデー生技部　杉浦 英樹
F 車体保全部　鍵谷 敏明

稼働条件の変更は、品質影響が大きく、明確な理屈とトライ検証が必要。今後も協力して、さらなる改善を目指します。

環境マネジメント

連結環境マネジメントの強化

当社、グループ会社、取引先、地域と一体となった積極的な環境取り組みを通じて、緊密な関係づくりに努めています。

環境感度が高く行動できる人づくり

環境月間を機に未来への環境取り組みを考え、新たな領域や更なる高いレベルを目指す為「トヨタ環境チャレンジ２０５０」をテーマに講演会を開催しました。

また２０１４年度より環境保全取り組みに成果をあげた職場を表彰する制度を立ち上げて、今年度は優秀職場として非稼動時のエネルギーロスを大きく低減した職場（富士松プレスといなべ成形ショップ）に対し生産環境委員会委員長より表彰しました。

トヨタ自動車（株）山戸室長様を招き講演会を開催
（2016 年 8 月）

表彰制度を立上げ、省エネなど成果をあげた職場への表彰
（2016 年 5 月）

国内・海外グループ会社、取引先様とのマネジメント強化

取引先様に対して、環境問題に対し企業が未来に取り組む事項や責務について勉強会を実施しました。

また国内・海外グループ会社との環境会議を開催し、環境保全の課題認識や対策など審議し、現地スタッフの育成にも努めています。

click 「事業活動における資源投入量と排出量」

click 「環境会計」

click 「環境情報の積極的開示」

取引先様との勉強会
（2017 年 3 月）

国内グループ会社との環境会議
（2016 年 6 月）

トピックス

省エネルギーセンター会長賞　受賞

これまでの省エネ取り組みの意識改革と成果が評価され、２０１６年度の省エネ大賞の省エネ事例部門において、『省エネルギーセンター 会長賞』を受賞いたしました。
（主催：一般財団法人省エネルギーセンター）

【テーマ名：工場におけるマネジメント改革による省エネ】

トップによる現地現物での省エネの成果確認

先進技術、改善事例展示による実務者の技術力向上

PE 環境部　山本貴光（左）
大竹宏直（右）
（2017 年 2 月　表彰式）

みなさまからお寄せいただいたご意見をトヨタ車体のこれからのＣＳＲ活動やレポートの改善にいかすために、アンケートに是非ご協力ください。

お寄せいただいたご意見・ご感想は、上記の目的のためにのみ使用させていただきます。
（個人情報の取り扱いについては弊社「 プライバシーポリシー 」に基づき、適正に管理します。）

アンケートはこちらからご回答いただけます。 click

発行

本社	トヨタ車体株式会社 〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地　TEL.0566-36-2121
お問い合わせ	経営企画部 TEL.0566-36-7510　FAX.0566-36-9113
発行	2017年6月（次回発行2018年6月予定）

click http://www.toyota-body.co.jp/